

① 当該年度の重点取組目標・計画の実施状況

ア. 地球温暖化対策【温室効果ガスの抑制】

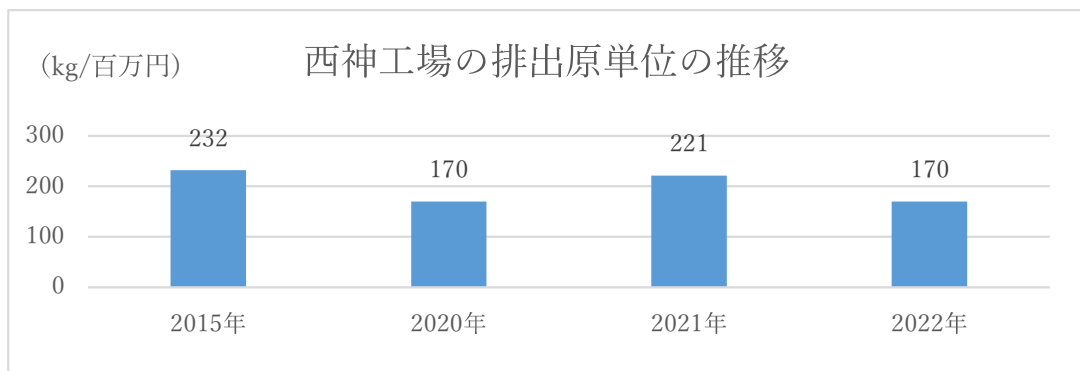
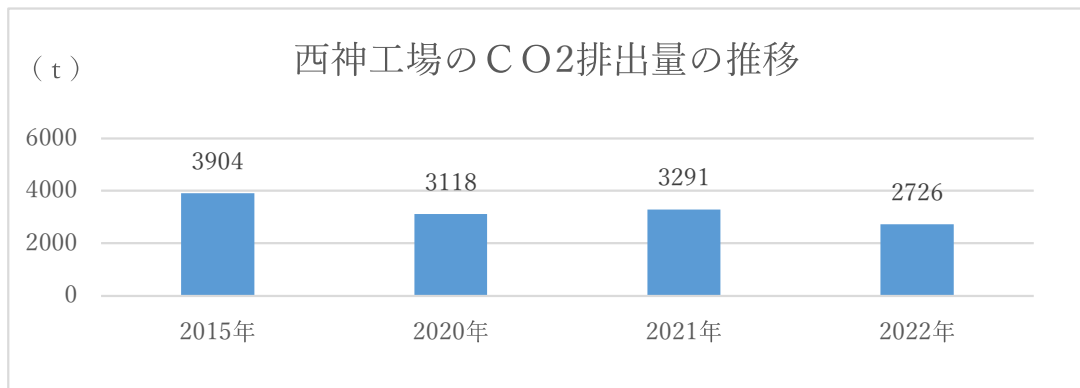
CO2 について、燃料および電力の省エネルギーを行い、排出量低減に努めている。

当社では、長期目標 2015 年基準 63.0%絶対量削減(2030 年度)を定め、その達成のために、単年度目標を定めて活動している。2022 年度の全社単年度目標は 2015 年度基準 12.6%であるが、生産計画および省エネ活動を合わせて 7.7%削減の 3,605(ton)を設定した。

実績は、2022 年度の CO2 排出量は目標値 3,605(ton)を 879(ton)下回る 2,726(ton)で目標値より 24.4%低減、2015 年排出量 3,904(ton)に対しては 30.2%削減できた。

工場 CO₂ 排出状況

項目		2015年 (基準年)	2020年	2021年	今年度 2022年
生産高	(百万円)	16,833	18,348	14,869	16,076
工場 CO ₂ 排出量	LPG (t)	201	202	206	194
	ガソリン (t)	7	1	0	0
	軽油 (t)	3	0	0	0
	メタン (t)	0	2	3	2
	電力購入 (t)	3,693	2,913	3,082	2,529
	合計 (t)	3,904	3,118	3,291	2,726
工場排出原単位 (kg/百万円)		232	170	221	170



イ. 省エネルギーの推進

西神工場では、エネルギーとして電力、LPG、ガソリン、軽油を使用しておりエネルギー毎に削減目標を立て省エネルギーとなるよう活動している。電力は設備、機器の更新および損失と運用の改善を行って省エネルギーを推進している。電力削減の取組として工場の屋根に太陽光パネルを乗せて太陽光発電を行うよう進めている。LPGのほとんどを製品の表面処理液の温度上昇に使用しており、処理量の増減によりLPGの使用量も比例するので生産量の増減でLPGの削減の方法を見いだせていない。ガソリンおよび軽油は構内での運搬車両および建設機械の燃料として使用しており、現状の車両の運用を行う限り少量の使用は継続する。

② 公害防止対策に係る報告

ア. 目標達成状況と目標達成のために講じた措置・対策

目 標 項 目	目標達成状況	目標達成のために講じた措置・対策	
対大 策気 汚 染 防 止	「大気汚染防止法」、 「大気汚染防止法第 4条第1項の排出基準 に関する条例(兵庫県 条例)」及び「環境の 保全と創造に関する 条例(兵庫県条例)」等 の法令の規定を遵守	遵守できた。 定期的な点検を実施した。	
水 質 汚 濁 防 止 対 策	(公共用水域に排出する場合)		
	「水質汚濁防止法」、 「水質汚濁防止法第 3条第1項の排水基準 に関する条例(兵庫県 条例)」及び「環境の 保全と創造に関する 条例(兵庫県条例)」等 の法令の規定を遵守 する。	遵守できた。 雨水等の排水溝への油漏れ等 なきよう周知対応実施した。	
	(公共下水道を使用する場合)		
	・計画書別表2に記載 する排出水の水質に 係る管理目標値を遵 守する。 ・排出規制がない有 害物質について、可 能な限り使用量及び排 出量を把握し、排出削 減に努める。 ・有害物質等による 地下水汚染の未然防 止及び拡散防止に努 める。	・水素イオン濃度 (pH)7.0～7.6(5 < pH ≤9)達成 ・ノルマルヘキサン 抽出物質。動植物油脂 類含有量 排除基準 150mg/L 以下で分析 結果は最大 51 mg/L で達成 ・ノルマルヘキサン 抽出物質の鉱油類含 有排除基準 5mg/L に 対し最大 3.5mg/L で 達成	排水基準値内処理を維持した。

目 標 項 目	目標達成状況	目標達成のために講じた措置・対策
水質汚濁防止対策	<p>(有害物質(*)を使用している場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排出規制がない有害物質について、可能な限り使用量及び排出量を把握し、排出削減に努める。 ・有害物質等による地下水汚染の未然防止及び拡散防止に努める。 	有害物質の削減ができた。 洗浄液を有害物質非含有の製品に変更した。
騒音防止対策	<p>「騒音規制法」及び「環境の保全と創造に関する条例(兵庫県条例)」に定める基準を遵守する。</p>	<p>敷地境界線での騒音を定期的に測定。第1種住居地域に接する敷地境界線南側バッファゾーンでは、夜間に、空調機を運転すると空調機の室外機の騒音により、第3種区域の規制値を越えることがある。 また、製品開発の耐久試験機を運転すると第4種区域の夜間規制値を越えることがある。</p>
対策 振動防止	<p>「振動規制法」及び「環境の保全と創造に関する条例(兵庫県条例)」に定める基準を遵守する。</p>	<p>遵守できた。 設備設置時に確認実施した。</p>
悪臭防止対策	<p>「悪臭防止法」及び「環境の保全と創造に関する条例(兵庫県条例)」に定める基準を遵守する。さらに、神戸市悪臭防止暫定指導細目の目標値を遵守する。</p>	<p>順守できた。 臭気の強いものを扱うときは緩和するように対応してから、運用する体制をとっている。</p>
土壌汚染防止対策	<p>(特定有害物質(**))を使用している場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「土壌汚染対策法」及び「産業廃棄物等の不適正な処理の防止に関する条例」等の法令の規定を遵守する。 ・特定有害物質等による土壌汚染の未然防止・拡散防止に努める。 ・汚染土壌を搬出する場合は適正処理に努める。 	<p>順守できた。 土壌汚染につながる油漏洩の対応を順守できるよう、工場規定で油漏洩時に油の広がりを抑える緊急油液処理キットを設置している各置場においての使用状況を確認し、必要なものの在庫はあることを確認した。</p>
産業廃棄物対策	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の法令の規制を遵守し、廃棄物の適正処理を行う。 ・廃棄物の発生量を抑制するとともに、再利用を促進する。 	<p>接着剤等の容器であったガラス瓶をリサイクル業者で回収実施。 ガラスをリサイクル処理する処分業者に継続して排出した。</p>

イ. 2022年度 排水水の汚濁状態測定結果

排水口名 : 排水口 1									
項目	管理目標値			測定値		全測定回数	目標した測定回数を超過回数	目標値達成判定	法令基準達成判定
				最大 (pHのみ 最小～最大)	平均				
法令 排水基準 設定項 (生活環境項目)	11	水素イオン濃度(pH)		5 < pH ≤ 9	7.0～7.6	7.2	47	0	○
	12	ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (動植物油脂類含有量)	(最大)	150mg/ℓ以下	51	9.0	47	0	○
	13	ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量)	(最大)	5mg/ℓ	3.5	0.99	47	0	○

単位はpHを除き、mg/ℓ ND: 定量下限値以下

○ 達成 × 未達成

③ 地球温暖化対策に係る報告

ア. 今年度における電気・燃料等の使用量、温室効果ガス排出量

活動の区分	燃料・焼却物等の種類	使用量等	単位	単位発熱量(MJ)	排出係数	排出量	温暖化係数	合計(CO ₂ 換算)
					kg-CO ₂ /MJ	kg-CO ₂	CO ₂	
燃料の使用	軽油	0	ℓ	37.7	0.0686	0	1	0
	ガソリン	200	ℓ	34.6	0.0671	464	1	464
	LPG	64,833	kg	50.8	0.0590	194,317	1	194,317
	メタン	700	Nm ³	43.5	0.0510	1553	1	1553
電気事業者から供給された電気の使用	一般電気事業者	8,459,576	kWh	—	0.299	2,529,413	1	2,529,413
合計						2,725,747		2,725,747

イ. 当該年度の計画達成状況

温室効果ガス	削減目標(ton)		排出量(ton)		削減率(%)	
	今年度	2030年度	基準年度(2015年度)	今年度	今年度	2030年度
二酸化炭素	3,605	1,445	3,904	2,726	30.2	63
メタン						
一酸化二窒素						
HFC						
PFC						
六フッ化硫黄						
合計	3,605	1,445	3,904	2,583	30.2	63

ウ. 目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

	分野	項目	細目	目標	実施状況
1	再生可能エネルギーによる発電	発電	太陽光発電	125 千 kWh	0、発電装置製作せず
2	機器更新	空調機、コンプレッサ、LED照明	更新	79 千 kWh	104 千 kWh
3	機器内要素機器更新	油回収装置、空調機冷媒効率改善装置	更新	70 千 kWh	87 千 kWh
4	損失改善	エア漏れ改善、待機電力、電力ロス	配管チェック、電源投入・遮断の適正化、電線内電流整流	85 kWh	338 千 kWh
5	運用改善	生産時間短縮	工作機械の運転以外の通電時間短縮	13 千 kWh	14 千 kWh

④ 公害防止対策、地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る報告

	分野	項目	細目	目標	実施状況
1	事業所等での 節水	節水	上水道水栓水圧調節	使用量2021年度 以下	2021年度5080m ³ 使用が 2022年度4869m ³ 使用と なり目標達成
2	事業所等での 廃棄物の適正 処理・減量	分別回収	啓蒙・分別指導	徹底	分別しそこなっている機 器がまだある。
		埋立処理の全廃	リサイクル業者探索 再利用	全量	埋め立て処理なし
		コピー用紙の 使用削減	裏表印刷 モニター利用	2015年比 20%削減	30%削減により目標達成
		コピー用紙の裏再利用	裏面利用可能用紙の 準備	徹底	裏面利用可能な用紙が常 にある状態
3	事業所等での 再生製品等使 用	グリーン購入の実施	購入時のグリーン購 入品の優先選択	徹底	グリーン購入があまり認 知されておらず優先選択 できていない
		再生紙の使用促進	再生紙優先選択	徹底	再生紙と新品の価格が同 じにより優先選択できて いない。
4	環境負荷の少 ない資源、材 料、燃料の選 択	廃棄の際の環境影響 を配慮した材料の選 定	製品設計時の考慮と 設計審査での確認	徹底	まだ性能優先のため環境 負荷の少ない材料が選ば れる状況にはない。
5	自動車対策	エコドライブ・アイド リングストップの推 進	啓蒙・効果の認知度 向上教育	徹底	昼休みの休憩時に アイドリング している人が なくなる。
6	特定フロン等 使用量の削減	設備更新時、特定フロ ン非使用設備を導入	冷媒についてのチェ ック	全量	設備導入時の確認実施
7	環境に配慮し た施設	緑地の整備	構内整備の 漏れ無き計画	漏れ無き実施	構内緑地比率が維持でき るよう対応している。
		光害の抑制	設備設置時のレイア ウト検討	夜間照明の抑制	必要時間のみ点灯するよ うタイマー対応している
8	従業員教育	ヒヤリハット・危険予 知教育	各部署での毎月の 定例活動実施	徹底	80%以上の実施率
		新人に対する環境に 関する自覚教育	環境負荷低減に役立 つ実務の紹介	2回/年	目標達成
9	地域社会への 参画	社員の献血参加	啓蒙	2回/年	新型コロナウイルスの ため中止
		地域住民へのグラン ド貸し出し	地域の少年サッカー チームへの貸し出し	随時	新型コロナウイルスの ため中止
10	環境管理シス テムの充実	ISO14001-2015年度版 とISO45001-2018年 度版との統合による 効率化	外部審査時間の短縮	全部門	統合実施で 20%の効率化達成
		内部環境監査の 実施	短期集中による効率 実施	1回/年	目標達成